

小さい人にも大きな人にも

まはら三桃



デビュー以来、中高生が主人公の物語を書くことが多いのですが、ここ二年ほど続けて小学校五年生の女の子と男の子が主人公の作品ができました。『三島由宇、当選確

実!』と『奮闘するたすく』です。由宇ちゃんはおじいちゃんの選挙活動を手伝い、佑くんは認知症になったおじいちゃんをサポートします。いずれも最近、社会で話題や問題になっている、十八歳選挙権と介護問題を材に取った物語です。

一見とつつきにくそうな題材に挑戦しようと思ったのは、すぐに関係が出てくることになった選挙のことや、世の中に当たり前にある老後の問題を、子どもさんたちにも分かるように表現することが、私の仕事だろうと思ったからでした。とはいえ問題意識を持って真正面から切り込むのは私には力不足なので、なるべく面白く書きたいと心がけました。

実際には選挙も介護も物語にあるような、きれいなこと

ばかりではないでしょう。けれどもだからこそ、小さい人たちが初めて出会うかもしれない児童書でしかできない表現ができればと思いました。

『奮闘するたすく』の発想のきっかけになったのは、六年くらい前に、たまたま地方ニュースでインドネシアから介護士の資格を取るために来日した研修生の特集を見たことです。最初は、「介護も外国に頼る時代になったんだ」くらいの気持ちで見えていたのですが、その研修生のノートが画面に映った瞬間身を乗り出しました。現場の様子や教わったことが、母国語と英語と日本語でびっちり書かれていたのです。とても迫力のあるノートで胸に焼き付きました。私の場合、心が強く動いたところに物語の種を見つけたことが多いのですが、この時はすぐにとりかかるとはありませんでした。

少しずつ準備ができてきたのは、その後多少なりとも介護の真似事をするようになったからかもしれません。